

令和6年度東温市総合教育会議会議録

開会の日時及び場所 令和7年2月25日(火)午前 10時 00分
東温市庁舎 4階 大会議室

議事に出席した構成員	市長	加藤 章
	教育長	八木 良
	教育委員	本田 隆彦
	教育委員	大西 正志
	教育委員	大野 誠司
	教育委員	石丸 知美

学識経験者 一般社団法人コムスクえひめ 代表理事
西村 久仁夫

議事に出席した職員	総務部長	森 賢治
	事務局長	田中 聡司
	保育幼稚園課長	近藤 和明
	生涯学習課長	渡部 昌弘
	給食センター所長	高須 義春
	学校教育課長	松本 則一
	学校教育課指導主事	橋本 清
	学校教育課長補佐	藤岡 弘

傍聴人 なし

1 開会宣言 (10:00)

松本課長 (開会を宣す。)

2 市長あいさつ

加藤市長 それでは失礼いたします。

改めまして、皆様、おはようございます。

本日は大変ご多忙の中、令和6年度総合教育会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から本市の行政はもとより、教育行政にご支援、ご協力をいただいておりますことを重ねて感謝申し上げる次第でございます。

ご案内のようにこの総合教育会議は、教育委員会と市長が教育政策につきましての方向性を共有しながら、相互に連携して、効果的に推進していくために、開催しているところでもございます。

この会議を通じまして、皆様方と、より深く、意見交換を行いつつ、一層連携して教育行政にあたりたい、このように思っているものでございます。

今年度の総合教育会議につきましては、「学校統廃合について」をテーマとして開催することといたしました。

本日は、一般社団法人コミスクえひめ代表理事の西村久仁夫様をお招きいたしまして、先生ご自身が関わられたご経験をもとに、学校統廃合等に対して、ご講演をいただくことといたしております。

他の自治体での事例、そしてまた、統廃合の地域や子どもたちにあたる影響等々につきまして、講演を通じて、学びを進めていきますとともに、講演後における皆様のご意見の交換、それから、西村先生からご助言をいただくことで、本市の今後の方向性を考える上での大きな参考といたしたい、このように考えているところでございます。

ご案内のように教育は地域の未来をつくる大切な基盤でもございます。本市の子どもたちが、よりよい環境で学んでそして成長できるよう、皆様とともに精一杯育て、育みながら進めて参りたい、このように考えておりますので、どうかよろしく願い申し上げます。

最後に、本日の会議が実りあるものとなりますよう、心からお願い申し上げます。冒頭のあいさつといたします。

本日はよろしく願いいたします。

松本課長

それでは、本会議の進行につきましては、東温市総合教育会議設置要綱第4条第1項により、市長が議長を務めることとなっておりますので、市長に議事進行の方よろしく願いいたします。

3 東温市の小学校・保育所・幼稚園（認定こども園）の現状

加藤市長

それでは定めによりまして、議長の方、進めさせていただきます。よろしく願いいたします。

本日の会議について、原則公開といたしておりますけれども、ご案内のように静謐な環境での協議をしたいと思っております。

現時点では、傍聴者はありませんが、途中でもし傍聴をご希望さ

れる方がおられた場合に、東温市総合教育会議設置要綱第 6 条の規定を適用いたしまして、本日の次第の 4 の講演までを公開とし、次第 5 の意見交換及び協議の方は、非公開として、傍聴に関する対応とさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

委員全員
加藤市長

(意義ない旨伝える)

ありがとうございます。ご承認いただきましたので、次第 4 の講演までを公開ということで進めたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、本日の次第の 3、「東温市の小学校、幼稚園、認定こども園の現状」につきまして、事務局からご説明をお願いします。

松本課長
加藤市長

(資料説明)

ただいま事務局の方から、現状についての報告並びに説明がございました。ご意見ご質問等につきましては、講演の後、合わせてお願いします。

4 講演

学校統廃合について

演 題 「学校統廃合について考える」

講 師 一般社団法人コムスクえひめ 代表理事 西村 久仁夫 氏

田中局長
西村氏

(西村久仁夫先生の紹介をする。)

(講演)

5 意見交換及び協議

加藤市長

西村先生ありがとうございました。非常に、示唆に富んだご講演でございました。

それでは、ここから教育委員の皆さまにご質問も含めて、順番にご意見をいただきたいと思えます。

本田委員

西村先生には、貴重なお話をいただきまして、ありがとうございました。

統廃合に関しましては多面的に考え、慎重に進めていかなければならないというナイーブ感覚を持っていましたが、今日お話をいただきまして、新しい学校文化を築いていくという気持ちで取り組むこと、それから、地域を大切に、新しい地域づくりに取り組むこと、統廃合でこういうところが一番大切ということを教えてくださいいただきまして本当に感謝しております。

統廃合について、私が思っていることを四点お話させていただいたらと思います。また間違いがありましたらご指摘をいただいたらと思います。

一つ目の統廃合の基準についてです。学校規模の標準というのには、小中学校とも 12 学級以上というのが、示されています。

そうしますと拝志小学校、川内中学校も標準を下回っていますので、これもいずれは対象になるのかなということになりますが、今、検討されなければならないのは、東谷小、西谷小と上林小だと思います。

しかし、現在 3 校は小規模の良さを活かして、個々に応じた細やかな指導を行い、保護者の方からも信頼されていますし、地域の積極的な努力により様々な体験活動、特色ある教育活動を実践し、多大な成果を上げていますので、複式学級解消や集団としての機能の段階が圧倒的にならなければ、直ちに統合すべきとは思っていません。

地域の協力を得られないほどの高齢化や、或いは通常の教育活動ができない、非常に定数の弊害が避けられなくなったときが、判断の時期になるのではないかなと思っております。また、すぐ統合ではなく、統合のための準備期間も必要だろうと思います。

保護者や地域の方々と時間をかけて綿密な協議を行って時間をかけ、統合の問題の把握とその解消のための対策等を検討することが必要だと思います。拝志小学校含め、統廃合がやむを得ない状況になったときにも、大規模での生活に、馴染まない子どもたちもいると思いますので、小規模特認小学校として、一校は残す必要があるのではないかなと考えています。川内中学校につきましては、地域性も考慮し、将来、小中一貫校の実施も検討すべきではないかなと思います。

二つ目は、統合までの期間に配慮すべきことですけれども統合までの期間において、小規模校のメリットを活かし、デメリットを最小化するために、行政や地域の協力が欠かせないと思います。メリットを活かした教育活動は、現在も実践出来ていますので、このような取り組みがさらに充実するために、生活支援、学習支援員の配置、地域コーディネーターの積極的な関わり、予算的な配慮が望まれます。デメリットに対しては、現在の学年活動、学校行事の合同実施、地域住民の積極的な協力、ICTの活用等が行われていますけれども、今後さらに、合同授業の定期的な実施、オンライン授

業、専科教員の学校兼務の要請等が必要ではないかと思ひます。社会性やコミュニケーション能力の育成のために、空き教室を、老人クラブ等に提供するなどして、日々、地域住民との交流、ふれあいができる環境づくりを行うことも有効ではないかと思ひます。

三つ目は、統合の際に配慮すべきことですがけれども、従来に対しては、小規模校の児童が不安なく移れるよう、従前の対策に加え、距離を考慮した通学のための支援、孤立しないための学級編制の配慮、生徒指導の充実のために、小規模校の教職員を優先的に配慮することが必要ではないかと思ひます。双方にメリットのある統合にするために、相互の良さを活かした教育活動が実践できるよう、当分の間、学校運営協議会や、PTA役員も対等の統合となるよう配慮したり、相互の特色ある教育活動を継続できるよう、小規模校の学校設備も可能な限り残し、統合された学校での教育活動の実践の場として活用できるようにして、相互に地域をリスペクトできるようなケアや教育活動を検討し、展開して欲しいなと思ひます。

遠くからの通学児童が増えるため、防災対策の見直しも必要かと思ひます。児童のための防災用品、食料地区の充実や、帰宅困難児童への配慮も必要になると思ひます。

また廃校になった地域は、若者が地域を離れ急激な地域の衰退が予想されます。残された高齢住民の準備の困難な状況に対し、買い物、通院の確保などの支援と、十分な対策が必要だと思ひます。過疎化が進行した場合、里山の機能が失われると、自然災害や獣害が発生し、その地域だけでなく、周辺の地域にも影響が及ぶことが懸念されますので、荒廃を防ぐ手だても必要となります。田畑の有効活用による里山の有効性を起こす必要があるのではないかなと思ひます。

四つ目は、将来の教育のあり方について検討する機会に、この統合の検討の機会にしていただきたいと思ひます。単に過疎の問題の解決ではなく、教育課題への対応を考慮した統合にしなければならぬと思ひます。いじめや不登校に対しては、小中一貫校の実施や、生活支援員を減少せずに、再配置すること、また一方、踏み出せない子どもが自然の中でゆったり過ごせるよう、廃校に、「ひだまり」の分室機能を持たせることも有効ではないかなと思ひます。自然体験の不足に対し、小規模校の環境、人材を活用した体験活動を充実したり、体力向上のために、休日の廃校施設を活用した

りすることも考えられます。教師の働き方改革のため、小中一貫校の設置、学年チームティーチングの推進、小学校専科制の一部導入、兼務教員加配要望などが考えられます。統合によって東温市の教育はさらに充実することを考えております。

西村先生

ありがとうございます。学校統廃合ということになったときに、いろんな課題があつてそして、いろんなご意見が、ご紹介した宇和島市の例の中でも出てきているということが実際のところですよ。

最も課題になるのはどういう合意形成をしていくのかということです。宇和島市ではありませんが、ところによつたら、子どもの意見表明も必要じゃないかとか、学校統廃合に関してそういうような課題が出てくる中で、どこで誰の意見を聞いて、それをどう総合的に判断をしていくのか、いろんな関係のあるところの意見を聞いていくという手だては必要じゃないかなと思います。

今、お話をいただいた中でも、学校で解決をしていくべき内容であつたり、教育委員会が解決をしていく内容であつたり、そして場合によつたら、保護者に意見を聞くようなところであつたり、そういうようなことがある中で、大きく分けたら、学校、家庭、地域、行政の四つの合意形成をしていって、教育に関して、これまでずっと僻地・小規模校と言われるところは、たくさんありますから。

これまで、少人数指導の有効性ということも、さんざん研究発表にて少人数でも大丈夫、やれると言っていたことが、ここに来てどうして人数が多い方が良いのかという意見など、そういうことはもう当たり前に出てきます。

こと、統廃合に絡んだときに、そういう中で、一方ではやっぱりこれまで培ってきた少人数指導の良いところを活かしていくということがあり、一方では、小学校に英語やプログラミングなどの新しい教育が入ってくる中で、小学校の専任・専科教員をどう配分していくのかと言つたら、ある程度人数がいらないといけないでしょうと言われるというようなところもありますよね。そこはどうやって解決をしていくのかというのはやっぱり、そこにいる教員であり保護者であり、地域であり、行政でありといったところが1つ1つの課題を、解決をしていくということを積み上げていくことが大切だと思います。だからそこを、何とかなるだろうという考えで統合に結び付けるわけにはいかないということは、自明ですので、是非、今のようなご意見を出していく中でその課題解決はどうしていくのかと考えることは、おっしゃる通り本当に対し大切な

というふうに思っています。私として、ここで何か言うということはできませんが、そういう、教育の専門家の課題であったり、保護者からの課題であったり、地域からの課題であったり、1つ1つ拾い集めて、そこをどう解決するかという営みが、今の中でできたらきっと、学校再編、在り方の検討にも参考になるんじゃないかなと思いました。

大西委員

西村先生、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。子どもや地域の未来をつくるという視点で考えるということが大切だということを改めて感じました。学校統廃合について意見を述べさせていただきます。

私は小学校1学年から3学年まで、現在、川上小学校に統合されている松瀬川小学校に通い、小学校4年から卒業まで、南吉井小学校に通いました。松瀬川小学校のときには、先生のきめ細かな指導や家族的な雰囲気などがあって、遠足など、楽しく過ごせた思い出がたくさんあります。また、南吉井小学校へ転校してからは、4年生になって初めて経験したソフトボールやいろいろな考え方の同級生との交友関係など、松瀬川小学校では出来なかった様々な経験をすることができました。私の経験からは、大規模校では勉強以外の学校行事、集団活動、団体競技や同級生との交流といった、様々な体験を通じて、多様な価値観や考え方に触れる機会が多く、子どもたちの個性を伸ばし、可能性を拾うなど、教育的な視点でのメリットは多くあると考えております。

なお、学校統廃合については、子どもたちの学習環境や学校生活への影響を最優先に考慮しつつも、登下校への配慮、地域社会への影響、財政的視点など、様々な側面から慎重に検討する必要があると考えています。

西村先生

本当に、今おっしゃられたように、今の教育は、繋がりの中で学ぶという方向になっています。よく現場では、主体的、対話的で深い学びというようなことが言われています。対話的な学びの中に、子ども同士の対話があり、教師と子どもとの対話があり、そして良き地域の大人との対話があります。そういう中で、子どもたちは育っていくということです。それにより、多様な価値を見いだしていくということに繋がっているのです。それは、統廃合のあるなしに関わらず、やっぱり多様な価値を学ぶということは大切なことなんだと、専門家ではないと言われましたけれども、向かっている方向として、まさに的確におっしゃっておられるので、是非、これから

の統廃合の検討のところでも、考えて行けたらいいなと思いました。

大野委員

西村先生のお話をお伺いして、本当にもう統廃合しなければならないぞというところが近づいたときには、今日の先生のお話は、大変参考になりました。なるほど、こういうふうに、統廃合を進めていくために学校運営協議会で真剣に話し合っ、明るい未来を創っていくことが大事だと非常に参考になりました。東温市で、各地域の学校は、地域活性化の元でありまして、なくなったら、地域の灯が一気に消えます。子どもを出産する世代の若者は、学校がなくなれば、各地域に住まなくなります。今現在、学校が無くなっていないのに、平野部に下がって行って住む人が増えているのも現状です。地域にとって学校は太陽であり、無くなって初めてその必要性に気づいても手遅れです。

東温市内では児童の減少により、滑川小学校、土屋小学校、松瀬川小学校、山之内小学校などの学校が廃校になり、ご存じのように、地域は寂しくなっています。上林小、東谷小、西谷小やその地域を同じようにしてならないのではないのでしょうか。まだ、子どもの人数から考えると、少し時間があるように思います。まだ今なら間に合うんじゃないかと思います。

また、上林と西谷と東谷は、この市役所までくる時間は大体15分もあれば来られるという、地理的、距離的にも同じような場所です。そこで西村先生のお話を伺いながら、二つのことを考えました。

一つ目は東温市全体としての教育の質の保障です。小規模校でなければできない教育の質、中大規模校でなければできない教育の質、それらの教育の質を東温市全体で共有する教育システムを作ることを提案します。

二つ目は、学校を単なる教育施設としてではなく、地域の文化拠点や文化、歴史、福祉、移住のハブとして再活用することを提案します。

まず一つ目の東温市教育を共有する教育システムについて述べます。一例として、デジタル技術を活用し、小規模校の児童が、中大規模校の児童のオンライン事業で、多様な考え方を学んだり、中大規模校の児童が小規模校の協力的な、そして活発な考えを出し合い、高め合う事業の様子を学んだりするなど、また、小規模校の児童が、中大規模校に出向いて学んだり、授業を受けたりするとい

うことです。逆に中大規模校の児童が小規模校に出向いて授業を受けたり、遊んだりすることなど、様々なシステムがあります。また、現在も実施されている通学校区の弾力化のバージョンアップを図っていったはどうでしょうか。これまで中大規模校から小規模校に転校した児童が認められ、活かされ、自立した経験を経て、自信を持って中学校に進学した事例が幾つもあると聞いています。

そのために市が中心となって、地域や小規模校のよさや、児童の募集をアピールする、インスタグラム等を作り、SNSを活用して、写真や動画で自然環境やふるさと学習、地域の伝統、活発な授業風景等を発信し、県内、市内、全国から児童を募集してはどうでしょうか。

次に二つ目の小規模校、学校施設の再利用計画について述べます。小規模校の学校施設を、単なる教育の場ではなく、地域の図書館、公民館、デイサービスなど、先ほど申し上げた三つの小学校の地域のお年寄りや、いろいろ遠いところまでデイサービスに出かけて、週に1回か2回、行っている方が非常に多いのですが、もっと近くにデイサービスがあれば、そしてまた、子どもたちの様子を見ることができるのであれば、良いのではないかと考え、また、移住相談の場所など、多面的に活用してはどうでしょうか。

かぼちゃん号の巡回だけでなく、学校の図書館にも、最新の雑誌や話題の部分や配置し、地域図書館として賑わうようにしたり、公民館をコーナーの一室に作り、校内の施設を利用して、公民館活動を行うようにしたり、校内施設を改修し、地域のお年寄りがデイサービスを使うに向けられるようにしたい。その一環で、体の不自由な方には入浴サービスもできるようにすることなども考えられます。保護者、地域住民、行政、そして教職員が一体となり、地域の声を反映した、運営体制を構築していくことが必要だと思えます。

学校教育システムの共有、学校施設の再利用計画に対して、住民説明会や学校運営協議会を通じた対話を継続し、透明性を持った意思決定を行うことが大事と考えております。これらの施策を実現するために、国や自治体による補助金、さらなるICTの導入、施設再整備のための資金援助などを活用し、東温市が主体的に学校再生に取り組んでいくことが必要です。重要なのは、教育機関だけでなく、学校が福祉や文化のハブとなるよう、市や各地域全体で連携し、それぞれの強みを生かした、柔軟な対応を検討、実施していくことが大事だと考えています。すぐに統廃合に行く前に、もう

一度、そういうふうなことができないか、ぜひ検討してみたいなと思います。

西村先生

お話を伺いながら、これは面白いなと思いました。これが実現をしていったときには、そこには夢があると思います。東温市の未来ということに関して、夢がありますが、ただ、その夢を実現するためには、事務局はきっと大変だろうなとか、市の方はお金がどれぐらい必要になってくるのかなということも一方で思いながら、やっぱり前を向いて進むということが、子ども達の、何の教育でも大事なものは、わくわくドキドキをどう体験させるのかというところがありますけれども、もう大人が本気になって、わくわくドキドキしながら、問題に向き合っていたときには、何か素晴らしいことができるのではないかなというのを、今、お伺いをしながらおもいました。実現可能性がいかほどかということはありませんが、やっぱりその視点がこのコミュニティ・スクールの導入という点になったときに、多くの自治体で考えたのが、コミュニティ・スクールが地方創生の大きな力になるということで、取り組んでいるところがたくさんあります。なぜかという、学校と家庭と地域が、一緒になって何かを実現をしていく。今、言われたような施設ができ上がったときにも、そこが力を合わせて、その地域を運営していくようなことの可能性もあるので、例えば学校だけが大変な思いをする行政だけが大変な思いするということではなくて、みんながわくわくドキドキできるようなところがあったら、いいなと思いますながら聞かせていただきました。

石丸委員

西村先生ありがとうございました。自分が通っている学校が閉校になるというのは、子どもにとって大変なことで、そういったときに、地域の方、先生、学校運営協議会が中心となって、子どもに自信と誇りを授けるということは、本当に素晴らしいことだなと思いました。東温市の、小学校が廃校になる際には、そのような手法で子ども達へ地域からの贈り物として、してあげたいなと思いました。

東温市は、まだちょっと、統廃合の実施には、早いかなど考えております。東谷、西谷、上林小学校というのは少し規模が小さいですが、学校としては良いものがたくさんありまして、地域の方の協力も素晴らしいですし、先生方の教育システムとして、自分の思いを自分の言葉で伝えるという教育もしっかりなされていて、子どもたちもすごく成長していると感じています。環境、地域、先生方

もそろってあとはもう子どもだけというように、受け皿としてすばらしいと感じています。

このまま、子どもをふやす方向で考えられたなど個人的には思っています。その際も学校運営協議会などで、子ども達のために学校に呼び込むことを決める場合にも大きな役割を持っているということを感じました。今、既に機能していますが、統廃合などがあることを視野に入れますと、かなりもっと大きな役割が必要になってくるかなと感じました。保護者の中には、その動きをまだまだ知らない、まだ関心が薄い人も多いかなどは思います。

今後、保護者を啓蒙していく必要があるのかなと感じていました。貴重なお話ありがとうございました。

西村先生

今、お話を伺いながら思っていました、学校運営協議会の機能というお話もありましたけれども、もう昔、僕は若いころにふるさとという詩があります。「学んだところ必ずしも母校ではない。良き教師、良き友にめぐり合ったところが母校である。」という言葉がありましたけれども、今の教育というのはその中に、「良き地域の大人」という言葉が入って、「学んだところは、必ずしも母校ではない。良き教師、良き友、良き地域の大人にめぐり合ったところが、母校である。」そういう中で、子どもたちはいろんなことを学んでいく、その学校協議会自体が、子どもたちによき出会いを作っていく、話し合いをしていく、そういうようなことをしていく中で、現状の中でも、よりよい教育に繋がっていく。そこをやっていくというのを、もう今、僕の中でも改めて感じたところです。

学校運営協議会って、何をするとしたらなんだと言ったらそこは、ただ、意見交換をする、意見表明をする会ではなくて、具体的に何をするかということまで話し合う会議なので、じゃあ具体的に何をするかということについて、東温市のそれぞれの学校の中で、特徴に応じた話合いができていったときに、東温市全体として、どういう教育をしていくのかという、先ほどの大野委員さんからのご意見もありましたけれども、そこに繋がっていくのだろうと思います。今の皆様方のご意見をお伺いしながら、やっぱり東温市の未来づくりということで、そこを考えていく中枢として。実は総合教育会議での初めてです。こういう機会に今日のような話し合いがなされていったときに、やっぱり明るい未来というものがつくられていくのだろうなということを、最後まとめとして皆さんの方もご意見をお聞きしながら感じました。

大野委員 先般、学校評価委員会がありまして、学校の目標の設定や、今年度どのようにあったかという評価をしたのですが、その中で確か拝志小学校だったと思うんですけど、学校運営協議会に6年生も参加して話し合いをしたら、拝志小学校のことだけではなく、拝志をどういうふうにしていきたいというような話まで出て、子どもたちが学校運営協議会に参加したことは、すごくプラスになったというお話いただき、それを聞いて、今まで学校運営協議会といたら、地域の主だった人たちに来てもらっていたのですが、いろいろな意見を言うてもらうために、いろいろな人を呼べば、さらに未来が開けるということを今日の先生のお話を伺って、思いました。

加藤市長 事務局の方でも、ご質問などありますか。

田中局長 今月初めに当市の方でも、第1回目の学校等の在り方検討委員会を開催しました。委員さんの方から出たご意見としては、当然、統廃合すると地域が寂しくなるといった、意見が多かったと思います。一方で今日の先生のお話をお伺いして、統廃合はこれからのより良い学校づくりや地域づくり、また、子どもたちや地域の明るい未来のためにすることだということを改めて考えると、前向きに考え、ポジティブな思いが強くなったところです。

今後について、学校のあり方検討委員会においては、ただ統廃合の基準を決めるということだけではなく、これら今日お話のあった、子どもたちの明るい未来、そして、地域づくりなどについてもこれらを考慮して、これは学校運営委員会の方でも協議するようなことだとは思いますが、ただ単に基準をつけるだけではなく、子どもたちの未来とかためにどうあるべきか、というようなことも考えながら、学校のあり方の検討委員会において、話を進めていきたいと思っております。本当に今日はありがとうございました。

八木教育長 今日は西村先生、ありがとうございました。また、教育委員の皆さんも、素晴らしい意見いただいてありがとうございます。現在、東温市では、市長が日頃よりおっしゃられている、地域の子どもは地域で育てるということを受けまして、教育委員会としては、子どもたちを地域に好きになってもらって、東温市に住んでもらって、そして、たとえ東温市を離れることがあっても、東温市のことを思い、東温市に貢献できる人材を育てたいというふうに思っています。

これから子どもをふやすということは非常に難しいので、減少していくなら減少していく上での対策を講じなければならないと

いうふうに思っています。そのために、具体的にどういうことを大事にしているかという、子どもたちに、まず地域を知ってもらおう。それから、地域に住んでいるすばらしい大人に出会ってもらおう。そして、地域のことを考えるようになってもらいたいなと思っています。そういった中で、学校等の在り方検討委員会の方で、統廃合について意見をまとめて、教育委員会に答申をしていただくこととなります。

いただいた意見、答申を元に、教育委員会としての統廃合についての方向性を、これから考えていかなければならないと思います。その方向性を考える上で、本日の西村先生のお話が非常に役に立ったのではないかと思います。

キーワードとしては、委員の皆様からもありましたが、地域の未来と子どもの未来を考えることが大事であるということ。実は先日の学校等のあり方検討委員会が行われた後、すぐに、拝志小学校の拝志地区の区長さんが、上村地区や下林地区で集まられて、協議したそうです。このままでは、拝志小学校がなくなってしまう、地域として何かできることはないか、みんなで話し合ったということで、今後、その協議を進めていく上で、どうしたら良いかということ、せつかく学校運営協議会があるのだから、そこで、地域の皆さんと学校と、これからの方針についてお話しされたらどうですかと返答はさせていただきましたが、私自身、今ひとつ、学校運営協議会がどう統廃合について向き合えばいいのかということが曖昧なところではあったんですが、本日のお話の中で、学校運営協議会は、子どもと地域の未来を考える場であって、統廃合について議論するところではない。統廃合にあたって、解決すべき課題と、それから方向性を考える課題とは別であるというお話をいただきましたので、やっぱり教育委員会としてはですね、統廃合の方向性を考える課題について、議論を進めていきたいと思っています。

いろいろな課題がありますが、その課題は、学校がすべき課題、地域がすべき課題、行政が取り扱う課題があろうと思いますので、それぞれが課題解決に向けて、統廃合について考えていければいいのかなというふうに考えました。

本日、貴重なお話をいただいて、統廃合が進むかどうかまだわかりませんが、統廃合することがあっても、子どもたちに今いる地区、学校の誇りと自信を持って、新しい学校へ行かせてあげたい

し、地域も統合までの間、それから、もし統合した場合の子どもとのつき合い方を考えていく機会になったと思います。

本日はありがとうございました。

加藤市長

本日は、総合教育会議のテーマを、学校統廃合問題として進めさせてもらいましたが、これからも本市が直面して、向かっていく方向でございますので、引き続き皆さま方のご意見も伺いながら、いい方向へ向かっていければと思っております。

ご案内のように、本市は、平成16年の合併から20周年を迎えております。その中で、今までの各地域、自治会も含め、各地区の伝統文化を継承しながら進めてきてまいりましたが、私の政策の方はメインで、合併後の一体化を申し上げながら、ご意見を頂いてきたところでございます。様々な歴史、経過もございましたけれども、ご意見をお伺いしてきた中では、統廃合についても各地域の子どもたちから高齢者までの心の統合が必要なのかなと思っております。今後、市上げての取組も必要ですし、特に学校運営協議会の役割にも注目しながら対応をしていきたいと思っております。

それではちょっと長時間になりましたが、以上をもちまして、本日の総合教育会議の協議事項を終了し、進行を事務局へお返しします。

6 閉会

松本課長

(閉会を宣す。)

(午前11時50分閉会)